

【文学研究科哲学専攻 論文名】

区分	授与年月	論文名
論文博士	2006 (H18) 7	フッサール現象学における多様体論
論文博士	2006 (H18) 11	ベルクソン 聴診する経験論
課程博士	2007 (H19) 1	逆推理におけるニーチェ哲学
論文博士	2007 (H19) 1	デューイ自然主義の生成と構造
論文博士	2009 (H21) 3	C. S. パース「プラグマティズム」の研究 —関係と進化と立論のカテゴリー論的整序の試み—
課程博士	2009 (H21) 3	スピノザにおける直観と表現—共同体と文化の考察のために
課程博士	2010 (H22) 3	初期アウグスティヌス思想における宗教的探求の問題
課程博士	2010 (H22) 9	ヘーゲルにおける共同知の生成
課程博士	2011 (H23) 9	フッサールの自我論
課程博士	2011 (H23) 9	ヘーゲル論理学の「無限性」理論
課程博士	2012 (H24) 3	死の運命とヘルダーリンの美的存在論
論文博士	2013 (H25) 2	形而上学のゆくえ—ヤスパースとハイデガー—
論文博士	2013 (H25) 2	体系としての人倫の成立—ヘーゲル法哲学研究—
課程博士	2013 (H25) 3	トマス・アクィナスにおける聖書註解の研究
課程博士	2013 (H25) 3	G. W. F. ヘーゲルにおける「承認」と「自由」
課程博士	2013 (H25) 3	ミシェル・アンリの身体論
課程博士	2014 (H26) 9	生の刷新のためのフッサールの現象学的倫理学
課程博士	2014 (H26) 9	カンタベリのアンセルムスの神論
課程博士	2015 (H27) 3	西田哲学がビラン哲学にもたらしうるもの
論文博士	2016 (H28) 9	理性的人格の実践的判断力と道徳的アイデンティティ — ジョン・ロールズの正義の理論の批判的再構成 —
課程博士	2017 (H29) 3	エマニュエル・レヴィナスと言語の問題
課程博士	2018 (H 30) 3. 1	カルナップ『世界の論理的構築』における「相互主観性」の問題
課程博士	2018 (H 30) 9. 13	形而上学と倫理—ジャンケレヴィッチとレヴィナス—
課程博士	2019 (H 31) 3. 20	デューイにおける成長と教育の民主主義的基底——コミュニケーションによる社会的経験の共有と多元性をめぐって——
課程博士	2019 (H 31) 3. 20	前期フィヒテの意志論の全容
課程博士	2021 (R 3) 3. 20	ヒューム『人間本性論』における「知覚」的世界の自然主義的再構成 ——印象と観念の差異としての「生氣」にかんする因果的解釈を軸として——
課程博士	2022 (R 4) 3. 20	ルソーにおける政治的身体と一般意志
課程博士	2023 (R 5) 3. 20	ショーペンハウアーにおける共苦の形而上学的基礎の解明

【文学研究科英文学・英語学専攻 論文名】

区分	授与年月	論文名
論文博士	2007(H19)12	<i>The Confidence-Man</i> as Melville's Apocrypha : The Pursuit of Man, Christ, and God Represented as a Biblical "Fool Play"
論文博士	2014(H26)3	<i>Bound by the Pentecostal Oath: Chivalric Performance and the Round Table in Malory's Morte Darthur</i> (聖霊降臨祭の誓い: マロリーの『アーサー王の死』における騎士的行為と円卓)
課程博士	2018(H 30)9.13	<i>Pilgrimage in War: The Influence of the Second World War and the Theme of Vocation in Evelyn Waugh's Later Novels</i> (戦火の歴拝—イーヴリン・ウォーの後期小説における第二次世界大戦の影響と召命のテーマ)
課程博士	2022(R 4)3.20	<i>The Acquisition of the English Article System by Japanese Learners of English as a Foreign Language: Learning Noun Countability</i> (日本人学習者による英語冠詞システムの習得: 名詞可算性の学習)
課程博士	2023(R 5)3.31	<i>The Antagonists of God: Ideologies, Gender, and Christianity in C. S. Lewis's Novels</i> (神の敵対者たち: C. S. レイスの小説におけるイデオロギー、ジェンダー、キリスト教)

【文学研究科文化史学専攻 論文名】

区分	授与年月	論文名
論文博士	2006 (H18) 12	古代東アジア地域相の考古学的研究
課程博士	2007 (H19) 7	反近代から「普遍」としてのヴィジョンへ ―ウィリアム・モリスの思想展開―
課程博士	2007 (H19) 9	文久政局再考 ―朝廷を中心に―
論文博士	2007 (H19) 12	日本海沿岸地域における旧石器時代の研究
課程博士	2008 (H20) 7	地域政権の考古学的研究―古墳成立期の北陸を舞台として―
論文博士	2010 (H22) 1	古墳時代の遺跡学―ヤマト王権の支配構造と埴輪文化―
論文博士	2010 (H22) 2	医療の専門化と女性の身体―アメリカにおける産科学の台頭―
課程博士	2010 (H22) 9	日本古代親子意識の研究
課程博士	2010 (H22) 9	戦前期上海における外国人居留民社会 ―共同租界行政をめぐるイギリスと日本の関係を中心に―
課程博士	2011 (H23) 3	縄文・弥生時代におけるサヌカイト製石器群の技術論的研究
論文博士	2011 (H23) 9	―休派の結衆と史的展開の研究
課程博士	2011 (H23) 9	20世紀前半の英国における「精神薄弱者問題」 ―公的管理と社会階層―
論文博士	2012 (H24) 1	古墳時代の喪葬と祭祀の研究
論文博士	2012 (H24) 9	九州縄文文化の研究―九州からみた縄文文化の枠組み―
課程博士	2012 (H24) 9	共和政末期ローマの政治文化におけるコンティオ
論文博士	2013 (H25) 9	ブルクハルト―教育としての歴史
課程博士	2015 (H27) 3	恒藤恭の戦前から戦後における民族認識 ―「合理的精神」展開の一断面―
課程博士	2015 (H27) 9	平安前期対外姿勢の研究
課程博士	2016 (H28) 3	『太平記秘伝理尽鈔』の思想 ―その構想と方法―
課程博士	2017 (H29) 3	中世後期における寺社参詣の研究 ―京都の寺社と参詣者―
論文博士	2017 (H 29) 9. 14	近世京焼の考古学的研究
課程博士	2017 (H 29) 9. 14	ローマ帝国支配期カルタゴ周辺地域における文化と記憶
課程博士	2018 (H 30) 3. 20	南方熊楠・土宜法龍の研究 ――交わりの視点から読む、近代日本の知識人の主体形成――
課程博士	2018 (H 30) 3. 20	原資料から見る初期の日伊外交貿易関係 ―ジェノヴァ公の来日を中心に―
論文博士	2018 (H 30) 3. 1	「縄文玉製品」の起源の研究
論文博士	2018 (H 30) 3. 1	日本中世仏像文化史論―南都文化圏・慶派仏師を中心に―
課程博士	2020 (R 2) 3. 5	平安時代前期仏教彫刻の再検討―八五〇～八七〇年代の基準作例を対象に―
論文博士	2020 (R 2) 9. 10	北海道続縄文文化の研究
課程博士	2021 (R 3) 3. 31	自由と解放の身体文化――独立戦争期キューバにおける野球
論文博士	2023 (R 5) 3. 20	日本古代製鉄の考古学的研究―近江から日本列島へ―
論文博士	2023 (R 5) 9. 7	弥生時代青銅器鑄造技術と生産体制

【文学研究科美学芸術学専攻 論文名】

区分	授与年月	論文名
論文博士	2006 (H18) 7	西洋美術史論考―北方ヨーロッパの美術―
課程博士	2007 (H19) 2	狩野永岳研究―様式選択の論理―
課程博士	2008 (H20) 3	ドラクロワの絵画の近代性と音楽の関わり
課程博士	2008 (H20) 7	明末青花磁器の研究―「古染付」と呼ばれる磁器の特質―
課程博士	2009 (H21) 3	上方浮世絵史再考―北斎様式の「選択」を手がかりに―
課程博士	2010 (H22) 2	岸田劉生「麗子像」の受容論―都市新中間層にとっての「でろり」
課程博士	2011 (H23) 9	アーウィン・パノフスキーと同時代 ―パノフスキーの「イコノロジー」からみた二十世紀の初頭のドイツの人文科学と美術史学の状況―
課程博士	2011 (H23) 9	正月用引札の視覚文化論：吉祥図像と広告機能の関係
論文博士	2012 (H24) 2	A. キーファー研究 ―芸術と思索―
論文博士	2012 (H24) 2	近世前期における茶の湯の研究―表千家を中心として―
課程博士	2012 (H24) 3	近世「長恨歌図」の研究―『長恨歌抄』の世俗化を手がかりに―
課程博士	2013 (H25) 3	ヴァルター・ベンヤミンの仮象概念についての美学的考察
課程博士	2013 (H25) 3	日本の報道写真をめぐる理論と実践―編集の視点から―
課程博士	2014 (H26) 3	ブルトンの芸術論とルヴェルディのリリズム概念
課程博士	2015 (H27) 9	実存の危機と言語の危機 ―R・M・リルケの詩学に関する芸術学的考察―
課程博士	2016 (H28) 3	ヘーゲルの芸術哲学と「近代」 ―「理念」と「感性的顕現」との関係を巡って―
課程博士	2016 (H28) 3	ジゼル・ブルレの音楽美学とその音楽美学史的位置づけ
課程博士	2017 (H29) 3	マントヴァ侯ルドヴィーコ・ゴンザーガ治世期における君主の顕彰図像と信仰 ―マンテーニャ作品再解釈に基づく15世紀マントヴァ宮廷美術考―
課程博士	2020 (R2) 3. 20	朝鮮絵画における西洋画法の受容―李亨祿の冊架画を中心に―
論文博士	2020 (R2) 3. 5	「平和記念」の造営と展示1915-1964 ―広島陳列館／資料館／公園の50年―
課程博士	2022 (R4) 3. 3	書における「正統性」の生成と変容 ―趙孟頫の王羲之像（イメージ）分析を起点として―
課程博士	2024 (R 6) 3. 20	大観から小景へ ――11世紀から15世紀の東アジア山水画史試論――

【文学研究科国文学専攻 論文名】

区分	授与年月	論文名
課程博士	2006 (H18) 7	「三島歌舞伎」論—その生涯と歌舞伎製作—
課程博士	2006 (H18) 7	日本近代文学における伝統性とモダニズム
課程博士	2008 (H20) 7	—一九二〇年代から一九四〇年代の異文化交渉と《日本的なもの》— 現代日本語における外来語増加のS-curveモデル —大正から平成までの社説の通時的調査を通して—
論文博士	2008 (H20) 11	古代宮廷儀礼と歌謡
課程博士	2009 (H21) 2	『平家物語』における琵琶関連記事の研究
課程博士	2009 (H21) 3	正岡子規における「写生」概念の研究—明治俳諧の諸相の中での再検討—
課程博士	2009 (H21) 9	古代後期文学の表現史—『源氏物語』の「この君」を通して—
課程博士	2009 (H21) 3	樋口一葉 テキストと作家イメージの生成
課程博士	2011 (H23) 9	日本語の音素の分布・配列に関する歴史的研究
課程博士	2012 (H24) 3	『沙石集』の思想と説話の方法
課程博士	2012 (H24) 3	日本児童文学の読者論的研究—明治二〇年代から昭和初期まで—
課程博士	2013 (H25) 3	馬琴読本の生成と展開
課程博士	2013 (H25) 9	『新古今和歌集』の配列に対する修辞技巧の役割 —歌枕・体言止め・本歌取りを中心に—
課程博士	2014 (H26) 3	日本古典芸能と中国文学—催馬楽・今様・能をめぐって—
課程博士	2014 (H26) 3	『諸道聴耳世間狙』における演劇作品の受容
課程博士	2014 (H26) 3	「天狗説話」の研究
課程博士	2014 (H26) 9	明治後期における紀行文の「進歩」とジャンルの自立性 —小島烏水の理論と実践を中心に—
課程博士	2015 (H27) 3	戦後・三島由紀夫文学の生成 —その思想性と文学的实践について—
課程博士	2015 (H27) 9	中島敦と＜南洋＞ —同時代＜南洋＞表象とテキスト生成過程から—
課程博士	2015 (H27) 9	日本近代における＜デカダンス＞の文学史的研究 —明治三〇年代－昭和二〇年代、＜否定性＞の系譜学—
課程博士	2015 (H27) 9	指示語「コ」「ソ」の文章論的研究 —小説における機能を中心に—
課程博士	2017 (H 29) 3. 31	『宇治拾遺物語』昔話関連話群の研究
課程博士	2017 (H 29) 3. 31	昭和文学における＜笑い＞の主題化 ——昭和初期から二〇年代、＜笑い＞の理論と実践の相互関係について——
課程博士	2017 (H 29) 3. 31	谷崎潤一郎大正期映画テキストの横断的研究
課程博士	2017 (H 29) 3. 31	谷崎潤一郎の＜メルティング・ポット＞ ——大正・昭和初期の作品における越境的美学——
課程博士	2017 (H 29) 3. 31	中日近代文学における留学生表象 ——二〇世紀前半期の中国人の日本留学を中心に——
課程博士	2017 (H 29) 3. 31	平安期物語における継子譚受容 —孝子説話型の継子譚との比較を中心として—
課程博士	2017 (H 29) 9. 20	『宇治拾遺物語』夢説話の研究
課程博士	2017 (H 29) 9. 20	古代日本語の因果関係を表す接続表現 ——漢文訓読の影響を中心に——
課程博士	2018 (H 30) 3. 31	谷崎潤一郎と中国古典——受容の実態と軌跡——
論文博士	2018 (H 30) 9. 13	横光利一とその時代—モダニズム・メディア・戦争—
論文博士	2019 (H 31) 3. 7	竹田からくりの研究
課程博士	2019 (H 31) 3. 31	武田泰淳中国小説研究——中国語資料援用の試み——
課程博士	2019 (H 31) 9. 20	『萬葉集』における訓仮名の基礎的研究
課程博士	2020 (R 2) 3. 20	『覚一本平家物語』考
課程博士	2020 (R 2) 3. 20	近代日本における徳富蘆花文学のメディア的展開
課程博士	2020 (R 2) 3. 31	森鷗外の〈創作的批評〉 ——大逆事件前後・〈国家〉と〈社会主義〉をめぐる対話篇——
課程博士	2021 (R 3) 3. 20	花田清輝・後期歴史小説研究——非暴力主義の探究——
課程博士	2023 (R 5) 3. 20	近世壬生狂言の研究
課程博士	2023 (R 5) 3. 20	古代日本語における漢字の意味用法の受容 ——漢文訓読語への影響を中心に——